

### 谷口池東側園路について

(1) 平成 21 年度第 6 回運営会議での意見

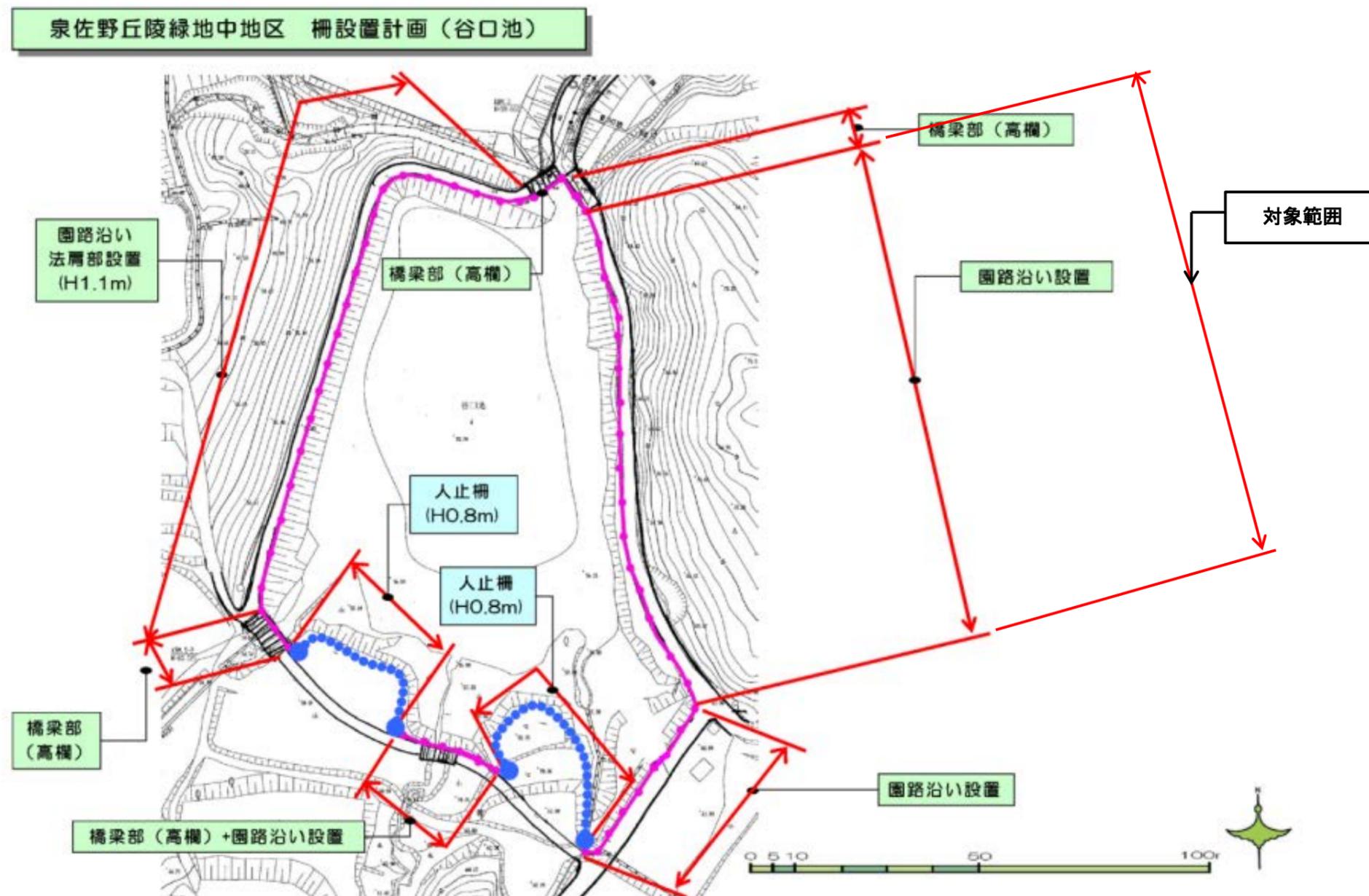
(増田委員長)

- ・谷口池沿いの柵設置位置等については、合意が図れている
- ・舗装や柵の色などを今後検討する必要がある。

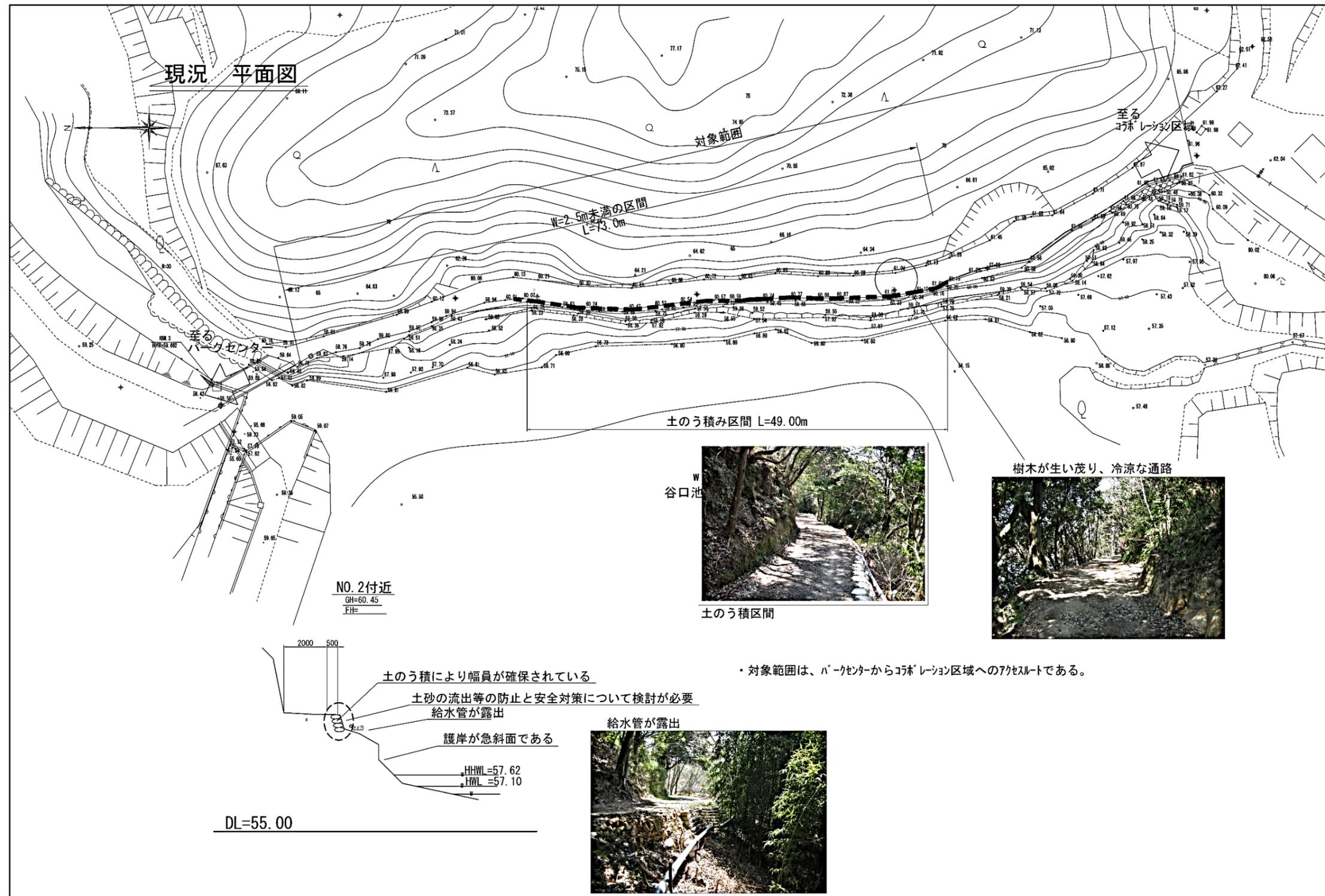


(事務局)

- ・樹木を避けながら柵を設置することに取り組む



(2) 現状の把握



(3) 園路の設定条件

- ・管理車両用通路（平成 22 年度第 4 回運営会議 より）として 2 t 車が通行可能な構造とする。
- ・パークセンターから休憩所までを移動円滑化園路に設定する。
- ・既存樹木を出来るだけ伐採しない工法を選定する。また落石防止、法面保護の観点から基本的に山側に切土は行わない。（図-1）
- ・車いす利用者が、待避できる待避所を設ける。

(幅員)

- ・車両通行幅は、緊急車両及び管理用車両が通行可能な幅員 2.0m、転落防止柵設置幅 0.5m を合わせた幅員 2.5m の園路として整備する。（図-2）

(舗装)

- ・舗装材は、現況のイメージに合った、周囲と調和した材料とする。
- ・移動円滑化園路に設定可能な材料とする。（参考-1 参照）

(転落防止柵)

- ・来園者や管理車両が池に転落しないよう、転落防止柵を設置する。
- ・転落防止柵の高さは、 $H=1.1m$  とする。（参考-2 参照）
- ・転落防止柵の素材は、耐久性や景観面を考慮し、谷口池西側と同様に擬木とする。

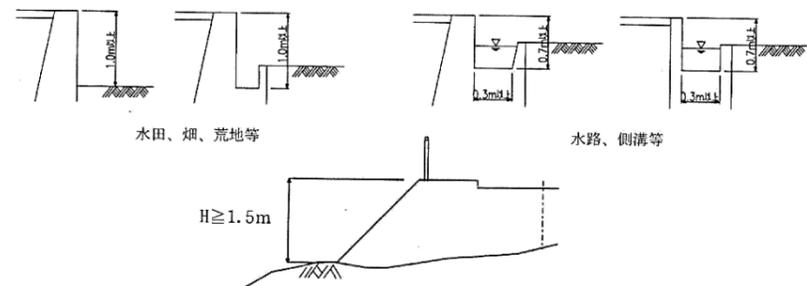
(参考-1)

- 都市公園の移動等円滑化整備ガイドライン（H20 年 国土交通省）
  - ・縦断勾配は、5%以下とすること。ただし、地形の状況その他の特別な理由によりやむを得ない場合は、8%以下とすることができる。
  - ・通路の幅は、1.8m以上とする。
  - ・通路の路面は、平坦で固く滑りにくいもの
- 大阪府福祉のまちづくり条例 設計マニュアル
  - ・砂利敷としない

(参考-2) 転落防止柵設置基準

- ・歩行者の転落防止を目的として路肩等に歩行者自転車用柵を設置（H16 年 3 月 国土交通省 防護柵の設置基準）
- ・水路等のある区間（H16 年 4 月 近畿地方整備局 設計便覧（案））
- ・転落防止柵の路面から柵面上端までの高さは、1.1m を標準とする。（H16 年 4 月 近畿地方整備局 設計便覧（案））

路面までの垂直高さが下記に示す値以上の場合柵が必要（近畿地方整備局 設計便覧（案））



※転落防止柵は、園路の主要利用が人であることから、車の衝撃荷重は考慮しない

図-1 NO. 3+8.03

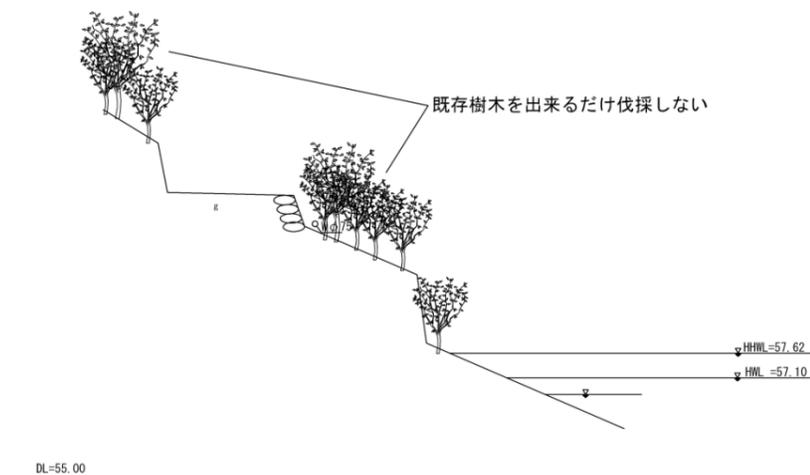
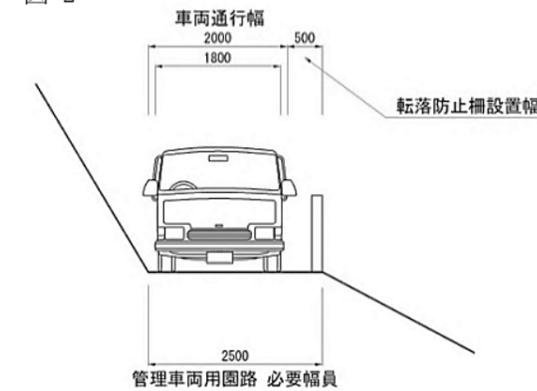


図-2



(4) 工法の検討

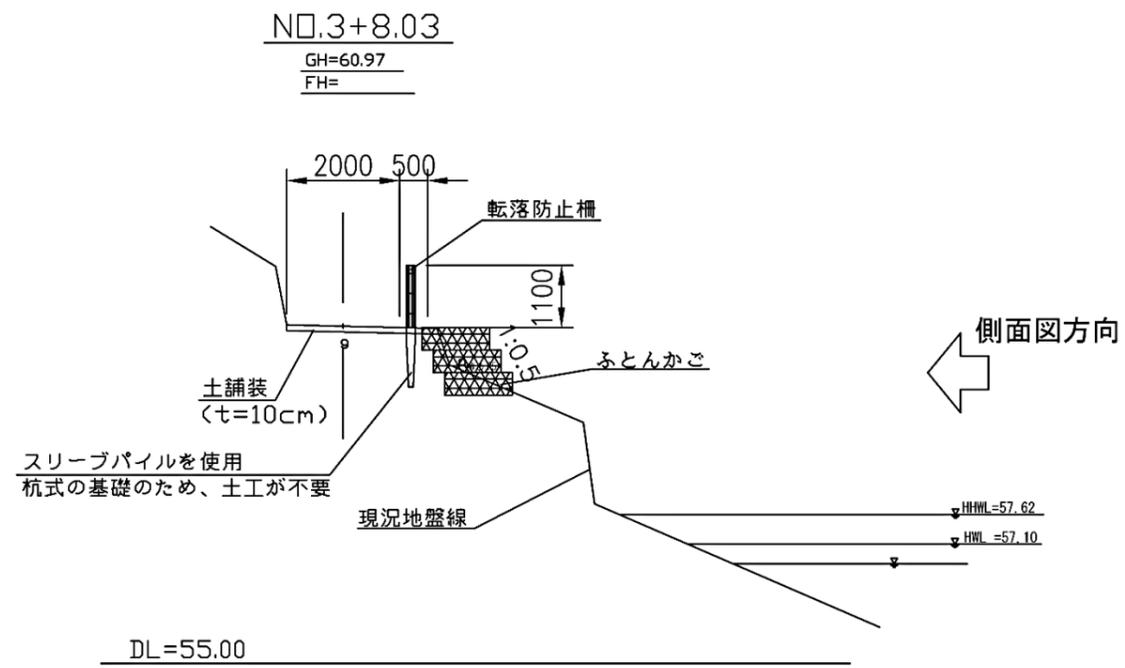
土のうを撤去し、長期的に安定した法面とするため、新たな土留めや張出しにより必要幅員 (2.5m) を確保する工法として以下の 2 案について比較検討する。

□ 工法別比較表

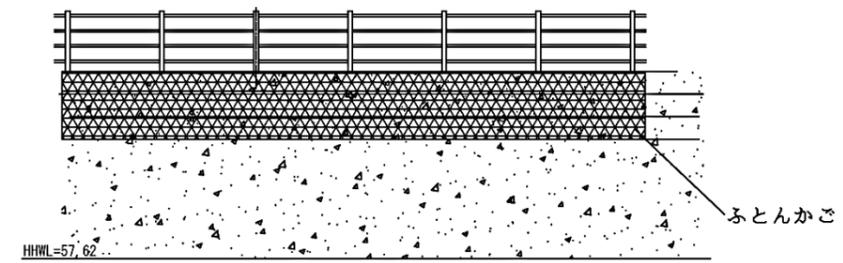
工種	A 案 (盛土)	B 案 (張出し)																								
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>必要幅員 (W=2.5m) を確保し、池側にふとんかごを設け盛土を行う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>鋼材と簡易基礎により、幅員を確保</li> <li>園路の横断方向に溝型鋼と簡易基礎の張出しを設置し必要幅員を確保す</li> </ul>																								
施工性について	<ul style="list-style-type: none"> <li>特殊な施工技術が必要としない</li> <li>樹木を出来るだけ伐採しないよう、きめ細やかな施工が求められる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>簡易基礎を電動工具で打込む (人力)</li> <li>簡易基礎は、地盤条件を選ばない</li> </ul>																								
景観等への影響	<ul style="list-style-type: none"> <li>ふとんかごの修景は可能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現況地形の改変を殆ど行わない</li> </ul>																								
植生への影響	<ul style="list-style-type: none"> <li>ふとんかご設置位置の樹木の伐採が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現況の法肩から約1m程度の幅で張出し部分の伐採が必要</li> </ul>																								
コスト比較 (10m当たり単価)	<table border="1"> <tr> <td>転落防止柵 (H=1.1m 擬木)</td> <td>35万円</td> </tr> <tr> <td>ふとん籠 (H=0.5m W=1.2m)</td> <td>180万円</td> </tr> <tr> <td>土工 (盛土)</td> <td>1万円</td> </tr> <tr> <td>撤去 (樹木伐採・処分)</td> <td>4万円</td> </tr> <tr> <td>諸経費 (直接工事費×50%)</td> <td>110万円</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>330万円</td> </tr> </table>	転落防止柵 (H=1.1m 擬木)	35万円	ふとん籠 (H=0.5m W=1.2m)	180万円	土工 (盛土)	1万円	撤去 (樹木伐採・処分)	4万円	諸経費 (直接工事費×50%)	110万円	合計	330万円	<table border="1"> <tr> <td>転落防止柵 (H=1.1m 擬木)</td> <td>35万円</td> </tr> <tr> <td>張出し (簡易基礎、鋼材含む)</td> <td>55万円</td> </tr> <tr> <td>切土</td> <td>1万円</td> </tr> <tr> <td>埋戻</td> <td>1万円</td> </tr> <tr> <td>諸経費 (直接工事費×50%)</td> <td>46万円</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>138万円</td> </tr> </table>	転落防止柵 (H=1.1m 擬木)	35万円	張出し (簡易基礎、鋼材含む)	55万円	切土	1万円	埋戻	1万円	諸経費 (直接工事費×50%)	46万円	合計	138万円
転落防止柵 (H=1.1m 擬木)	35万円																									
ふとん籠 (H=0.5m W=1.2m)	180万円																									
土工 (盛土)	1万円																									
撤去 (樹木伐採・処分)	4万円																									
諸経費 (直接工事費×50%)	110万円																									
合計	330万円																									
転落防止柵 (H=1.1m 擬木)	35万円																									
張出し (簡易基礎、鋼材含む)	55万円																									
切土	1万円																									
埋戻	1万円																									
諸経費 (直接工事費×50%)	46万円																									
合計	138万円																									
構造図																										
評価	△	○																								

# A案整備イメージ図

断面図



側面図

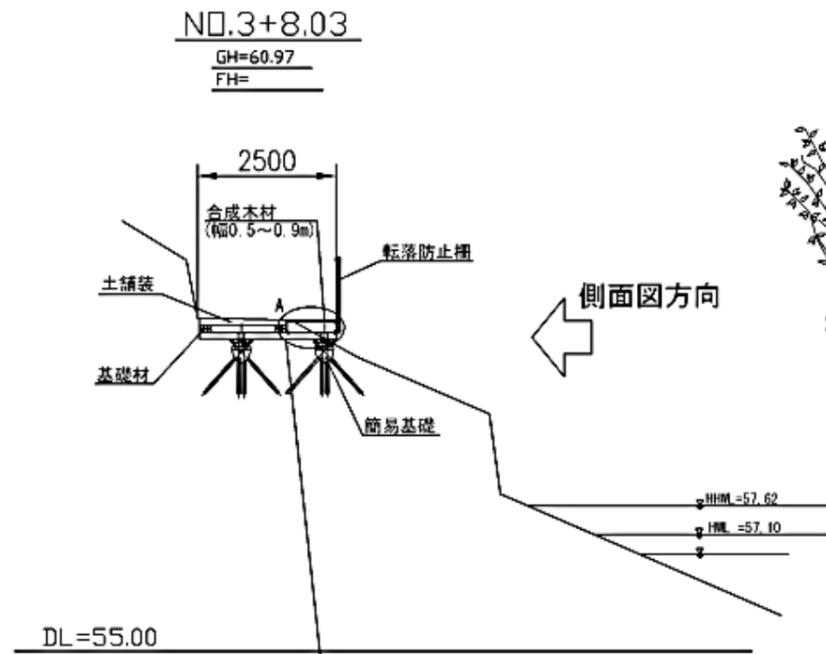


ふとんかご



# B案整備イメージ図

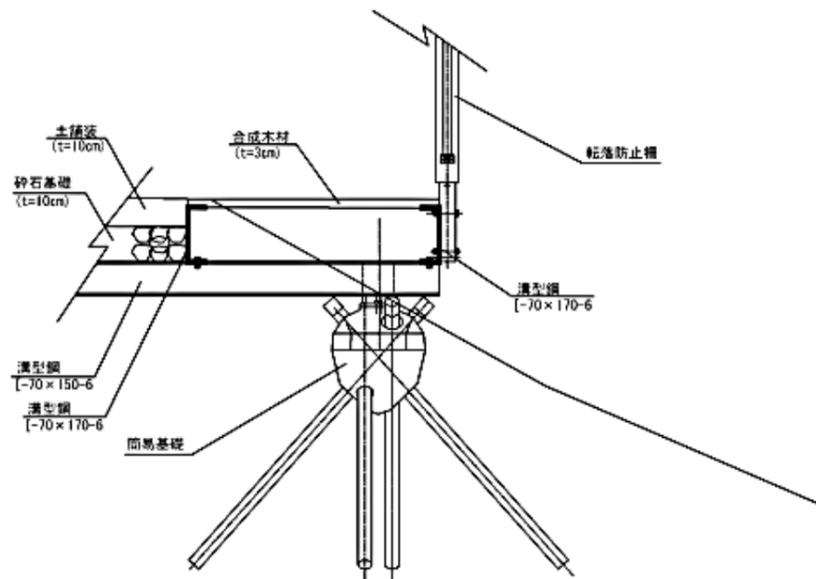
## 断面図



## 側面図



## A部 詳細図

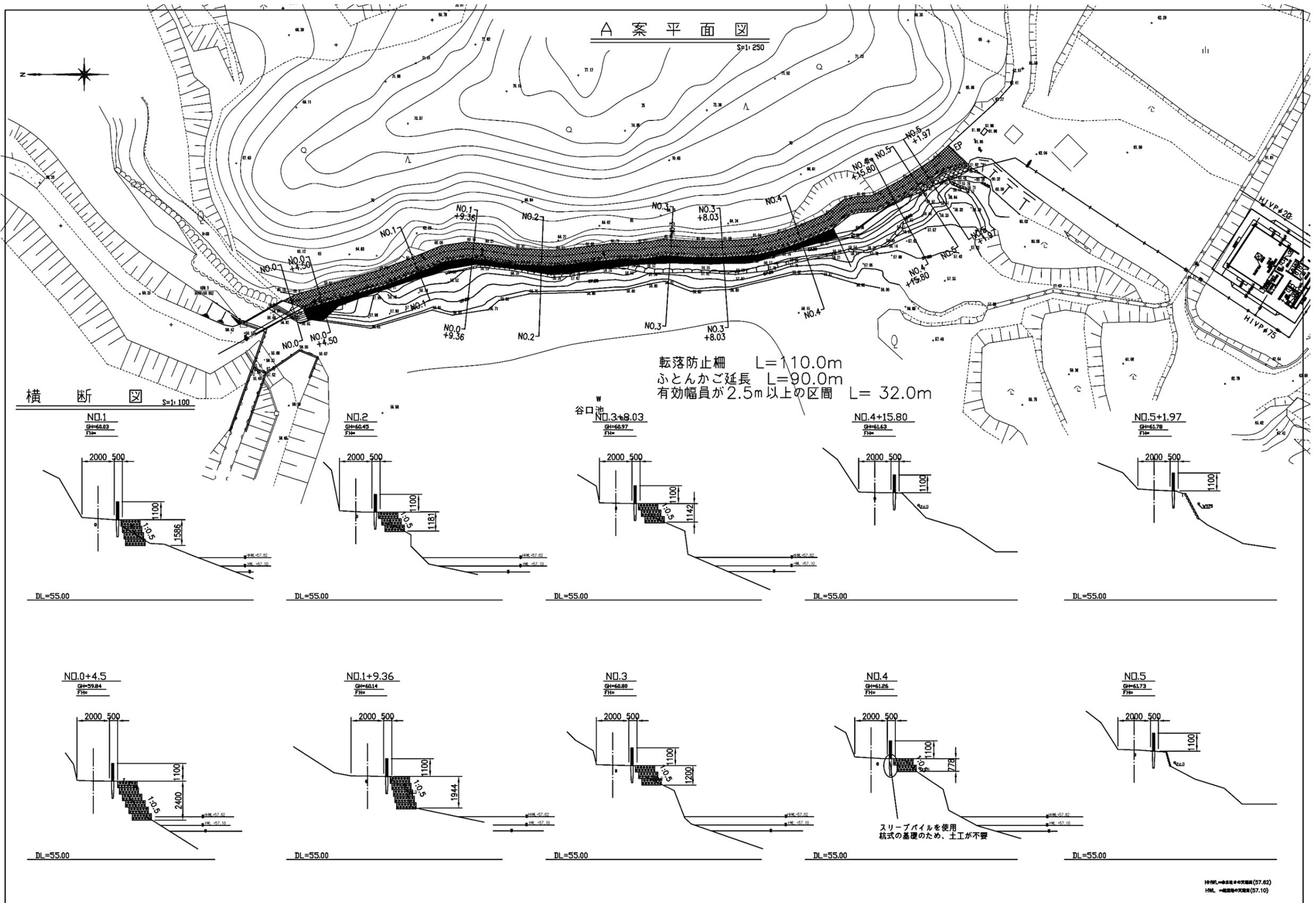


擬木柵（転落防止柵）のイメージ



△ 案 平 面 図

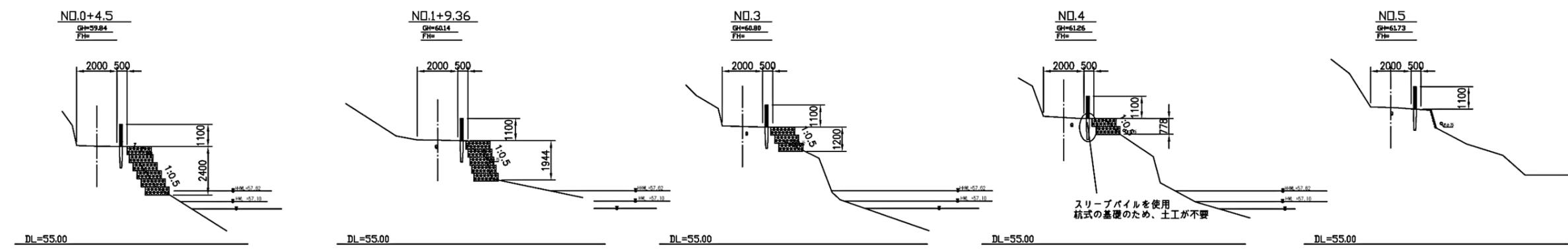
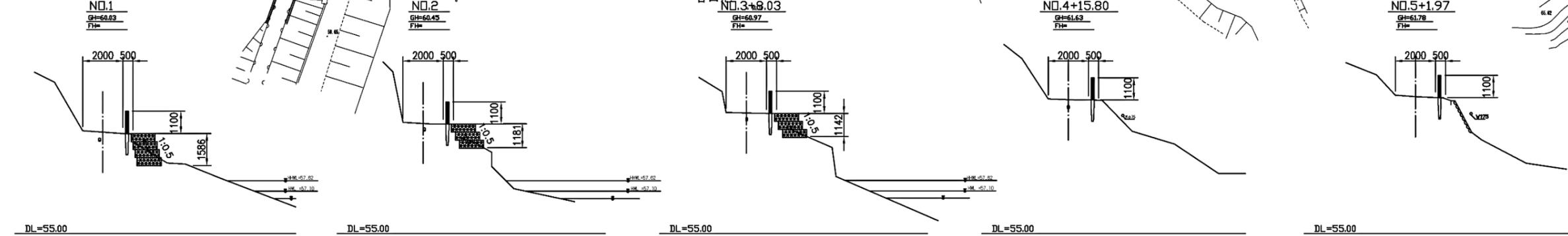
S=1:250



転落防止柵 L=110.0m  
 ふとんかご延長 L=90.0m  
 有効幅員が2.5m以上の区間 L=32.0m

横 断

S=1:100



スリーブパイルを使用  
 杭式の基礎のため、土工が不要

H/WL=事業地#の河床面(57.82)  
 HWL=橋脚地の河床面(57.10)

